

# 水産物価格の長期的考察

中 込 暢 彦

水産大学校研究業績 第五九七号、四五年二月四日 受理

## 一、生産地市場における水産物価格の推移

水産物のうち鮮魚と水産加工品とはその流通過程を異にする。ここで問題とする鮮魚の価格は、その経過する流通段階によって、生産地市場・卸売市場・小売市場それぞれにおける段階別価格を考へることができ、このうち、生産地市場における価格推移をまず考察しよう。

対象とする期間は、明治三〇年から昭和三年までである。ただし、昭和一六年から二五年にいたる期間は除外した<sup>①</sup>。というのは、この期間は水産物の統制期間で、価格形成にあたって強力な経済的要因が作用していた。また、統制価格が強要される他方では、 $\llcorner$ 闇価格 $\llcorner$ が実現されていた。このため、価格推移を考察する場合には、除外したほうが好適であるからである。

ところで、第二次大戦前については、水産物価格を総体として知ることのできる資料はない。長期にわたって、しかも全国的に概観できるものは、「農林省統計表」および「農商務省統計表」（以下「農林統計」と略称する）以外にない。これらの漁獲金額と漁獲数量とから魚種別に平均価格を算出するのが唯一の方法である。第二次大戦後については、昭和三〇年以降は、農林省統計調査部によって、生産地市場別、魚種別に「水産物市場価格調査報告」（以下「価格調査」と略称する）が公表されている。このため、昭和三〇年～三三年はこれに依拠するが、昭和

二六年～二九年は、つぎのようにして算出した<sup>②</sup>。「東京都中央卸売市場年報」には、昭和二六年以降魚種別に、この市場における卸売価格が示されている。そのため、この年報による卸売価格と「価格調査」による生産地市場価格とから推算した。

長期にわたって価格の動きを追う場合には、物価の変動を考慮に入れなければならぬ。そこで、戦前、戦後についてそれぞれ算出した価格を物価指数によってデフレイト<sup>③</sup>して実質価格の推移を示したのが第1表である。この表には、主要魚種としてつぎの一七魚種を取り上げた。ニシン・イワシ・サバ・マグロ・ブリ・カツオ・タイ・タラ・アジ・カレイ・サンマ・サケ・イカ・エビ・アワビ・カキ・コンブがそれである。しかし、すでに述べたように、昭和一六年～二五年は中断し、この前後においては統計の方法そのものが大いに異なる。そのため、戦後において、魚種によっては空欄もあるし、また、直線的にそのまま比較できない場合もある。

さて、第1表に注目しよう。漁業生産に携わる階層は雑多で、これを反映して漁業種類別とその生産力的な発展は均等でない。このために、魚種別の価格推移は一律でない。しかし、大まかに分類すれば、戦前について二つの価格推移の傾向を読みとることができる。その一つは、ニシン・イワシ・サンマ・タラ・カキ・コンブにみられるように、初期には比較的高価で、累年的に相対的な価格下落を示しているグループであ

第1表 主要魚種の生産地市場価格の推移 [M30～S33 (除S16～25)]

	エシジ	イワシ	サバ	マダロ	ブリ	タイ	サケ	カツオ	サンマ	アジ	タラ	カレイ	イカ	エビ	アワビ	カキ	コブテ
M30	15(300)	28(400)	48(155)	65(79)	70(63)	120(38)	109(147)	78(108)	61(124)	41(73)	30(231)	46(65)	46(118)	48(49)	93(65)	20(118)	13(650)
31	21(420)	29(414)	47(152)	84(102)	68(61)	125(40)	128(173)	78(108)	47(96)	43(77)	30(238)	49(69)	54(138)	52(53)	103(72)	41(241)	12(600)
32	27(540)	27(386)	72(232)	90(110)	92(83)	162(52)	74(100)	84(117)	127(259)	59(105)	37(285)	51(72)	66(167)	49(50)	102(71)	39(229)	12(600)
33	40(800)	29(414)	55(177)	86(105)	78(70)	151(48)	120(162)	96(106)	88(180)	52(93)	50(385)	71(100)	69(177)	62(62)	99(69)	40(235)	23(1150)
34	52(1040)	26(371)	59(190)	99(121)	76(68)	150(48)	73(99)	120(167)	99(202)	81(145)	41(315)	71(100)	57(146)	69(70)	91(63)	47(276)	20(1000)
35	54(1080)	24(343)	52(168)	88(107)	98(88)	159(51)	133(180)	68(94)	86(176)	40(71)	42(323)	72(101)	52(133)	66(67)	122(85)	72(424)	14(700)
36	49(980)	32(457)	51(166)	94(115)	87(78)	143(46)	130(176)	77(107)	85(173)	72(129)	45(346)	74(104)	45(115)	66(67)	106(74)	23(125)	13(650)
37	75(1500)	31(443)	54(174)	92(112)	90(81)	136(44)	145(196)	77(107)	57(116)	54(96)	29(228)	57(80)	50(128)	68(69)	122(85)	16(94)	13(650)
38	29(580)	30(429)	60(194)	87(106)	92(83)	154(49)	122(165)	79(110)	105(214)	60(107)	27(208)	62(87)	55(141)	47(48)	84(58)	10(59)	20(1000)
39	29(580)	26(371)	67(216)	93(113)	98(88)	154(49)	107(145)	73(101)	101(206)	67(120)	37(285)	57(80)	49(126)	46(47)	106(74)	11(65)	21(1050)
40	21(420)	23(329)	60(194)	99(121)	92(83)	170(54)	120(162)	101(140)	89(182)	66(118)	26(200)	59(83)	45(115)	54(55)	123(85)	9(53)	23(1150)
41	22(440)	31(443)	69(223)	102(124)	102(92)	183(59)	126(170)	86(119)	70(143)	69(123)	17(131)	61(86)	48(123)	69(70)	122(85)	13(76)	19(950)
42	21(420)	31(443)	59(190)	102(124)	103(93)	192(62)	130(176)	85(118)	52(106)	72(129)	21(162)	72(101)	66(169)	67(68)	120(83)	16(94)	23(1150)
43	16(320)	27(385)	53(171)	100(122)	116(105)	186(60)	92(124)	90(125)	58(118)	63(113)	15(115)	60(85)	57(146)	61(62)	103(72)	13(76)	27(1350)
44	14(280)	27(385)	44(142)	98(120)	108(97)	178(57)	83(112)	89(124)	41(84)	69(123)	17(131)	34(48)	55(141)	53(54)	92(64)	28(165)	20(1000)
T 1	16(320)	22(314)	41(132)	105(128)	105(95)	165(53)	74(100)	82(114)	22(45)	59(105)	13(100)	29(41)	40(103)	44(54)	127(88)	10(59)	15(750)
2	15(300)	19(271)	41(132)	97(118)	110(99)	163(52)	79(107)	82(114)	28(57)	66(118)	15(115)	34(48)	40(103)	56(57)	122(85)	10(59)	16(800)
3	15(300)	18(257)	43(139)	105(128)	109(98)	176(56)	76(103)	83(115)	32(65)	68(121)	14(108)	42(59)	34(87)	55(56)	129(90)	11(65)	22(1100)
4	11(220)	17(243)	40(129)	105(128)	96(86)	166(53)	75(101)	67(93)	35(71)	68(121)	15(115)	33(46)	40(103)	56(57)	97(67)	11(65)	23(1150)
5	8(160)	15(214)	31(100)	87(106)	83(75)	141(45)	97(131)	62(86)	33(67)	49(88)	11(85)	30(42)	34(87)	44(45)	97(67)	9(53)	20(1000)
6	9(180)	15(214)	33(106)	106(129)	80(72)	147(47)	83(112)	73(101)	33(67)	50(89)	16(123)	29(41)	33(84)	52(53)	127(88)	8(47)	20(1000)
7	10(200)	21(300)	31(100)	99(121)	95(86)	186(60)	95(128)	73(101)	63(129)	62(111)	16(123)	29(41)	51(131)	67(68)	136(94)	11(65)	18(950)
8	12(240)	22(314)	35(113)	127(155)	106(95)	203(65)	88(119)	87(121)	56(114)	72(129)	14(108)	43(61)	67(172)	70(71)	135(94)	11(65)	7(350)
9	10(200)	17(243)	42(135)	112(137)	107(96)	170(54)	83(112)	81(113)	48(98)	70(125)	12(92)	39(55)	37(95)	78(80)	109(76)	11(65)	6(300)
10	13(260)	17(243)	46(149)	159(194)	159(143)	256(82)	110(149)	118(164)	65(133)	87(155)	16(123)	61(86)	65(167)	131(134)	151(105)	18(106)	7(350)
11	12(240)	15(214)	48(155)	170(207)	169(152)	265(85)	111(150)	117(163)	52(106)	89(159)	16(123)	51(72)	44(113)	103(105)	159(110)	22(129)	8(400)
12	12(240)	17(243)	44(142)	188(229)	158(142)	261(84)	90(122)	106(147)	50(102)	90(161)	15(115)	62(87)	36(92)	109(111)	122(85)	21(124)	9(450)
13	9(480)	17(243)	46(149)	158(193)	151(136)	264(85)	113(153)	114(158)	41(84)	89(159)	15(115)	55(77)	44(113)	111(113)	160(111)	21(124)	9(450)
14	9(180)	15(214)	47(152)	162(198)	144(130)	273(88)	109(147)	121(168)	23(47)	84(150)	16(123)	48(68)	29(74)	109(111)	169(117)	23(195)	6(300)

S 1	10( 200)	17(234)	49(158)	115(140)	139(125)	298( 96)	108(146)	137(190)	32( 65)	78(139)	18(138)	66( 93)	40(102)	110(112)	175(122)	16( 94)	7( 350)
2	9( 180)	16(229)	48(155)	139(170)	122(110)	303( 97)	116(157)	103(143)	35( 71)	85(152)	16(123)	71(100)	42(108)	132(135)	177(123)	17(100)	6( 300)
3	9( 180)	15(214)	50(161)	148(180)	146(132)	301( 96)	135(182)	107(149)	40( 82)	83(148)	16(123)	74(104)	57(146)	120(122)	186(129)	17(100)	6( 300)
4	12( 240)	13(186)	48(155)	125(152)	137(123)	304( 97)	116(157)	96(133)	43( 88)	77(138)	17(131)	74(104)	58(149)	125(128)	173(120)	13( 76)	6( 300)
5	10( 200)	11(157)	46(149)	126(154)	125(113)	335(107)	96(130)	94(131)	22( 45)	84(150)	16(123)	70( 97)	56(144)	129(132)	163(113)	16( 94)	4( 200)
6	9( 180)	9(129)	44(142)	130(159)	132(119)	366(117)	91(123)	94(131)	50(102)	81(145)	18(138)	95(134)	58(149)	141(144)	183(127)	17(100)	4( 200)
7	7( 140)	9(129)	38(123)	99(121)	117(105)	331(106)	104(141)	65( 90)	47( 96)	70(125)	15(115)	82(114)	42(108)	113(115)	143( 99)	16( 94)	5( 250)
8	5( 100)	7(100)	31(100)	82(100)	111(100)	312(100)	74(100)	72(100)	49(100)	56(100)	13(100)	71(100)	39(100)	98(100)	144(100)	17(100)	2( 100)
9	7( 140)	8(114)	31(100)	83(101)	111(100)	294( 94)	66( 89)	62( 86)	44( 90)	62(111)	14(108)	75(106)	38( 97)	129(132)	171(119)	18(106)	3( 150)
10	8( 160)	10(143)	33(106)	64( 78)	111(100)	298( 96)	60( 81)	62( 86)	41( 84)	64(114)	16(123)	80(113)	68(174)	119(121)	190(132)	15( 88)	5( 250)
11	10( 200)	11(157)	34(110)	73( 89)	106( 95)	290( 93)	48( 65)	54( 75)	32( 65)	64(114)	18(138)	77(108)	58(148)	134(137)	181(126)	16( 94)	6( 300)
12	14( 280)	11(157)	26( 84)	72( 88)	94( 85)	261( 84)	52( 70)	45( 63)	29( 59)	55( 98)	14(108)	72(101)	61(156)	118(120)	126( 88)	17(100)	5( 250)
13	16( 320)	12(171)	29( 94)	95(116)	98( 88)	280( 90)	48( 65)	49( 68)	34( 69)	61(109)	19(146)	84(118)	56(144)	123(125)	143( 99)	21(124)	6( 300)
14	16( 320)	17(243)	31(100)	91(111)	126(114)	338(108)	65( 88)	69( 96)	45( 92)	73(130)	23(177)	91(128)	76(195)	173(177)	199(138)	28(165)	12( 600)
15	19( 380)	25(357)	56(181)	121(148)	102( 92)	380(122)	76(103)	76(106)	49(100)	68(121)	29(223)	94(132)	73(187)	212(216)	209(145)	27(159)	9( 450)
S 26		31(443)	46(181)	102(129)	104( 94)		141(191)	55( 76)	19( 39)	47( 84)	21(162)		16( 41)				
27		29(414)	38(123)	100(122)	95( 86)		152(205)	56( 78)	14( 29)	40( 71)	25(192)		15( 38)				
28		28(400)	41(132)	114(139)	110( 99)		202(272)	79(110)	15( 31)	33( 59)	29(223)		19( 50)		230(160)		
29		30(429)	37(119)	95(115)	112(101)		188(254)	66( 92)	17( 35)	35( 63)	26(200)		20( 53)		203(141)		
30		32(457)	46(148)	75( 91)	113(102)		169(228)	60( 83)	14( 29)	37( 66)	33(254)		17( 44)		224(156)		
31		31(443)	46(148)	84(102)	129(116)		194(262)	67( 93)	21( 43)	41( 73)	30(231)		26( 67)		288(200)		
32		36(515)	42(135)	82(100)	139(125)		183(247)	60( 83)	19( 39)	34( 61)	22(169)		20( 53)		321(223)		
33		31(443)	44(142)	97(118)	142(128)		185(250)	59( 82)	15( 31)	35( 63)	26(200)		28( 72)		353(245)		

〔備考〕

- ① M30～S15は「農林統計」により、S26～S29は本文中に述べた方法から、S30～33は「価格調査」から、それぞれ、1 費目平均価格を算出、それを、山田雄三氏および日銀の卸売物価格指数によってデフレートした実質価格を示す。
- ② 単位は銭、( )はS8を100したそれぞれの指数
- ③ イロシ、エビ、カキについて、M42以前、年次によっては“尾”などで表示されているが、これは考慮に入れない。
- ④ M38以前は、北海道の漁獲物を含まない。
- ⑤ S26以降は、イロシはワルイロシ、マダロはキワダ、タラはマダラ、イカはスルメイカの価格である。

る。イワシを例にとれば、昭和五年を一〇〇とした指数で、明治期には二〇〇以上、大正期に一五〇以上、昭和一〇年で九〇余と、年を追って価格が下落している。その二は、サバ・マグロ・ブリ・タイ・サケ・カツオ・アジ・カレイ・イカ・エビ・アワビのように、長期的にみて相対的に価格変動が小さいか、あるいは年を追って価格が上昇気味のグループである。マグロを例にとれば、昭和五年を一〇〇とした指数で明治期から大正初期にかけて七〇〜八〇、大正末期に一五〇余となり、昭和一〇年には七〇ほどとなっている。

また、第二次大戦の前後において、それぞれの実質価格を比較したとき、つぎのような特徴が指摘できる。戦前に較べ異常に漁獲量の増大したアジ・イカ・サンマを除いては、昭和一〇年前後に比し、戦後には相対的な価格の上昇がみられる。

だが、それぞれの魚種別の価格推移の分析は、それぞれの漁業種類に關しての生産構造・流通構造等々の十分な分析のうえにのみ解明される。ここでは、個々の漁業種類別の討究は行なわないで、水産物総体として眺めよう。

まず第一の点は、大正中期における価格の急激な上昇である。つづいて第二は、大正末期から昭和期にかけての漸落から横這い、昭和八〜一〇年を下底とした漸騰である。第三は戦前末期に比較して、戦後の相対的な価格上昇である。

これら各期の価格変動は、それぞれの期の社会経済的諸条件の変化を反映している。いまそれら諸条件を瞥見すると、つぎのとおりである。

大正中期には、生産構造のうえからいえば、漁船動力化の第一期の開花期である。したがって、画期的な漁業生産力の上昇がみられた。流通構造からいえば、運輸手段、冷凍・保蔵施設の発展に応じて全国的な市場圏が確立された。需要構造について特記すべきことは、都市への人口の集中により市場圏が深化した。同時に重工業労働者の増加に伴ない蛋白源食品への消費の傾斜が強まった。このため、第一次大戦後のいわゆる戦後恐慌期に、農産物価格が下落したのに対し、水産物価格はかえって騰貴した。この恐慌期に労賃水準は横這いであり、農産物価格が下

落し、この価格差が水産物など蛋白源食品の消費へ向けられたものと理解される。このため、漁船動力化による生産力の発展にもかかわらず、水産物価格は騰貴し、漁業には戦後恐慌の影響は現われていない。<sup>(1)</sup>

しかし、戦後恐慌に端を発し、震災恐慌→金融恐慌→昭和恐慌と打続く一般的な景気下降に依りて、水産物価格も大正一二年〜一三年を頂点に下落に転じた。そして、昭和恐慌の影響は漁業にもはつきりと現われる。大正末期以降横這い（豊凶等により魚種による差はある）を続けていた水産物価格は、昭和五年〜六年から急落する。この恐慌期に、独占の形成されていない漁業生産部門では、価格下落に対して、より多い生産量で対応しようとした。このため、この恐慌期に、小型漁船動力化を特徴とした漁船動力化の第二期の開花期が対応する。この結果、恐慌期に漁業生産力の上昇がみられ、水産物の価値が低下する。価値の低下は価格の下落となって現われ、同時に価格下落が長期化する。しかし、準戦時体制への突入とともに、昭和一〇年以降水産物価格は回復へ向かう。

第二次大戦は、漁業構造を根底から覆えし、その生産構造・流通構造などは戦前とは質的に異なる変貌を遂げた。これらの詳細については、すでに多くの労作も発表されているので、ここでは触れない。<sup>(2)</sup> 資本・労働力の漁業生産部門内部の自由な移動はもちろん、他産業部門との間でも行なわれるようになった。漁業資本も資本として自立し、資本漁業では、生産価格が実現され、水産物価格も相対的に上昇した。

注(1) 昭和一六年四月一日に「鮮魚介配給統制規則」が公布され、統制が全面的に撤廃されるのは、昭和二五年四月一日である。

(2) 戦後の水産物価格の調査は、昭和二九年以前にも行なわれた。それは昭和二五年四月以降水産庁調査資料課による「漁村物価調査」のうちの「漁業者生産物の販売価格」である。しかし、この調査の信頼度は薄いことが指摘されている（水産庁調査資料課「水産調査月報」一六号・五三頁参照）ので、ここでは使用しない。昭和二六年〜二九年の生産地市場価格の推算はつぎのようにして行なった。「東京都中央卸売市場年報」による魚種別卸売価格と「価格調査」による生産地市場価格とは昭和三〇年〜三三年の四カ年は、ともにえられる。両者のこの四カ年間比率の平均を算出して、これを昭和二六年〜二九年の卸売市場価格に乘じ

て、各年の生産地市場価格を推算した。なお、「価格調査」は六大卸売市場の水産物価格も公表している。そして昭和三〇年～三三年のこの価格推移と「東京卸売場年報」の価格推移はよく合致している。したがって、この推算も意味のあるものと思う。

(3) デフレーターとしては、戦前は山田雄三氏『日本国民所得推計資料』による卸売物価指数を、戦後は日銀卸売物価指数を使った。

(4) 水産研究会『戦後日本漁業の構造変化(Ⅰ)』では、「大正一〇年にはじまる戦後恐慌は、大正一一年以降の低落……と利益率の低下……となつてあらわれる」(同書五三頁)と共同漁業株式会社の事業報告書のみから、戦後恐慌を位置づけている。しかし、水産物価格の推移および当時の漁業経済構造の分析によれば、一般的には、漁業に戦後恐慌の影響はみられない。

(5) たとえば、浅田光輝「漁業経済研究の理論的な諸問題」、高山隆三「漁業における封建制の一検討」(ともに『漁業経済研究』第四卷三・四合併号所収)、秋谷重男「漁業における前資本主義的ウクラッドをめぐってのノート」(『漁業経済研究』第五卷三・四号合併号所収)など。

## 二、段階別市場価格差の推移

生産地市場における水産物の価格推移については、すでにみた。ここではまず、別の流通段階——卸売市場・小売市場——におけるそれぞれの価格推移を追おう。

戦前の卸売市場価格統計は、大正一〇年以降、各地の商工会議所による調査が唯一のものである。この調査の対象は、鮮魚としては、タイ・マグロ・ブリ・サバの四魚種である。この統計の信憑性については疑問視する向きもある。しかし、いま水産物の集散のもっともさかんな東京市における前記四魚種の価格を、生産地市場価格と同様な方法でデフレートして、その推移をみると、つぎのとおりである。統計的にえられる大正一〇年以降、水産物価格は、ここでも魚種による差は認められるが、総体としてみると、大正末期以降、下落ないしは横這いを続け、これが昭和一〇年前後まで続き、その後回復している。これは、大まかなところで、生産地市場における価格推移と大体似通っている。このことは、商工会議所調査による水産物の卸売市場価格が討究の対象として

第2表 主要魚種の卸売市場価格の推移〔T10～S33 (除S16～S25)〕

	タイ	マグロ	ブリ	サバ		タイ	マグロ	ブリ	サバ
T 10	53.0(85)	39.0(167)	17.9(144)	11.5(198)	11	65.3(105)	20.8(89)	13.1(106)	5.8(100)
11	54.2(87)	38.7(165)	20.7(167)	11.8(203)	12	60.8(98)	17.9(76)	11.8(96)	4.7(81)
12	47.8(77)	37.3(159)	17.8(144)	10.2(176)	13	68.1(110)	19.7(84)	14.7(119)	5.8(100)
13	49.9(80)	29.2(125)	16.8(135)	9.9(171)	14	71.6(115)	16.6(71)	17.0(137)	6.4(110)
14	46.2(74)	26.8(115)	14.8(119)	8.6(148)	15	83.8(135)	18.7(80)	16.8(135)	7.7(135)
S 1	50.7(82)	22.5(96)	13.7(110)	9.4(152)	26		12.1(52)	11.2(90)	6.4(110)
2	53.5(86)	28.1(120)	14.6(118)	9.8(169)	27		11.9(51)	10.3(83)	5.4(93)
3	50.1(81)	25.5(109)	15.5(125)	9.9(171)	28		13.5(58)	11.9(96)	5.8(100)
4	52.9(85)	24.2(103)	15.2(123)	8.6(148)	29		11.2(48)	12.1(98)	5.3(91)
5	56.2(90)	26.4(113)	15.0(121)	9.2(159)	30		9.2(39)	12.1(98)	6.0(103)
6	65.4(105)	25.0(107)	15.3(123)	9.1(157)	31		9.4(40)	14.2(115)	7.0(121)
7	62.0(100)	24.5(105)	12.9(104)	6.5(112)	32		9.8(42)	14.5(117)	6.3(109)
8	62.1(100)	23.4(100)	12.4(100)	5.8(100)	33		11.5(49)	15.4(124)	6.3(109)
9	61.2(99)	23.0(98)	14.1(114)	5.1(88)					
10	64.1(103)	19.8(85)	14.1(114)	6.7(116)					

- 〔備考〕 ① T10～S15は「東京府統計書」より、S26～33は「価格調査」および「東京中央卸売市場年報」から本文中にある方法で算出し、さらにデフレートして実質価格に換算したもの。  
 ② 単価円/10貫  
 ③ ( ) はS8を100としたそれぞれの指数。

第3表 主要魚種の小売市場価格の推移（東京）  
〔S1～S33（除S16～S25）〕

	タイ	マグロ	ブリ	サバ		
S 1			37( 62)	18( 90)		
2			56( 93)	21(105)		
3			47( 78)	24(120)		
4			51( 85)	23(115)		
5	26.7( 94)	31.1( 86)	57( 95)	19.8(114)	12.5(125)	22(110)
6	31.7(112)	30.2( 83)	59( 98)	21.7(126)	11.7(117)	20(100)
7	31.0(110)	27.8( 77)	67(112)	18.5(107)	11.6(116)	24(120)
8	28.3(100)	36.3(100)	60(100)	17.3(100)	10.0(100)	20(100)
9	33.7(119)	46.4(128)	51( 85)	20.6(119)	10.5(105)	19( 95)
10	30.8(109)	51.9(143)	55( 92)	21.9(127)	10.7(107)	21(105)
11	28.2(100)	43.9(121)	48( 80)	19.7(114)	10.3(103)	19( 95)
12	28.1( 99)	24.3( 67)	50( 83)	15.6( 90)	9.1( 91)	18( 90)
13	26.3( 93)	30.3( 83)	59( 98)	17.8(103)	10.9(109)	22(110)
14	27.5( 97)	32.8( 90)	66(100)	20.1(116)	10.6(106)	10( 50)
15	30.5(108)	40.0(110)	63(105)	21.5(124)	11.2(112)	10( 50)
26	14.5( 51)	16.9( 47)		17.0( 98)	7.6( 76)	
27	16.7( 59)	18.0( 50)		16.9( 98)	7.8( 78)	
28	16.3( 58)	18.2( 50)		18.3(106)	8.1( 81)	
29	15.3( 54)	17.4( 48)		17.3(100)	7.6( 76)	
30	20.2( 71)	17.6( 48)		18.6(108)	8.4( 84)	
31	20.4( 72)	17.8( 49)		20.1(116)	8.9( 89)	
32	21.7( 77)	18.2( 50)		21.0(121)	9.0( 90)	
33	20.4( 72)	17.8( 49)		21.1(122)	8.9( 89)	

〔備考〕 ① S 6～S15は東京商工会議所「東京物価及賃金調」による。なお、マグロ、サバの右欄だけは、東洋経済新報社「戦前戦後物価総覧」による、またS26～S33は総理府統計局「家計調査年報」より作成  
② 単位は銭/100匁（実質価格）  
③ ( ) はS 8を100としたそれぞれの指数

使用に耐えうるものであることを示唆している。  
戦後における水産物卸売市場価格は、昭和三〇年以降「価格調査」により、六大卸売市場を対象として行なわれている。そこで、これらを通覧して、水産物の卸売市場価格の推移を示したが、第2表である。この表の対象魚種としては、戦前に調査対象であったタイ・マグロ・ブリ・サバについてのみ掲げた。しかし、戦前と戦後とはその統計は異質で、戦後では、タイ・マグロはさらにその亜種について調査されている。したがって、直截的な比較ができないので、タイは戦後は空欄とした。マグロについては、マグロの亜種のうち漁獲量も多く、価格も中庸なキワダの価格を示した。

ている。つまり、生産地・卸売両市場価格がもつとも低落する昭和八〇一〇年代になって、後者においては価格が回復に向かう昭和一〇年代になると、戦前の水産物の小売市場価格調査の信憑性は疑わざるをえない。  
さて、段階別市場価格差の推移の検討に入るが、ここでは、生産地・卸売両市場価格を取上げよう。というのは、すでにみたように、戦前の小売市場価格に信憑性がないからである。  
戦前の卸売市場価格調査は、大正一〇年以降、タイ・マグロ・サバ・ブリについて行なわれたことはすでに述べた。したがって、この検討

小売市場価格の調査は、戦前では、卸売市場価格調査より遅れて、昭和五年以降、各地の商工会議所によって、卸売市場価格調査の対象となった魚種について行なわれた。また、東洋経済新報社「戦前・戦後物価総覧」には、マグロ・サバの小売価格が昭和元年以降月別に掲げられている。いま、東京商工会議所による年平均小売価格と「戦前・戦後物価総覧」の月別価格から単純算術平均して算出した年平均小売価格とを比較しよう。両者ともに生産地・卸売両市場価格と同様な方法でデフレートして実質価格の推移を示したのが第3表である。この表によると、二つの調査で対象となり比較できるマグロ・サバの価格推移には類似性がない。また、総体的に小売市場価格の推移をみても、生産地・卸売両市場価格の価格推移とまったく別のモードを示している。

第4表 生産地市場・卸売市場価格の累年比較〔T10S33 (除S16~25)〕

	タ イ			マ グ ロ			サ バ			ブ リ		
	生産地 価格 (A)	卸売価格 (B)	(B)/(A)	生産地 価格 (A)	卸売価格 (B)	(B)/(A)	生産地 価格 (A)	卸売価格 (B)	(B)/(A)	生産地 価格 (A)	卸売価格 (B)	(B)/(A)
T10	3.48	7.22	2.08	2.17	5.32	2.45	0.62	1.57	2.53	2.16	2.44	1.13
11	3.53	7.22	2.04	2.26	5.15	2.28	0.64	1.57	2.45	2.25	2.76	1.23
12	3.54	6.47	1.83	2.55	5.05	1.98	0.60	1.38	2.30	2.14	2.46	1.13
13	3.69	6.98	1.89	2.21	4.09	1.85	0.64	1.38	2.16	2.11	2.35	1.11
14	3.74	6.34	1.70	2.20	3.67	1.67	0.64	1.19	1.86	1.97	2.03	1.03
S 1	3.62	6.17	1.70	1.40	2.73	1.95	0.60	1.14	1.90	1.69	1.67	0.99
2	3.50	6.18	1.76	1.61	3.25	2.02	0.55	1.13	2.05	1.49	1.69	1.13
3	3.50	5.83	1.66	1.72	2.96	1.72	0.58	1.16	2.00	1.70	1.80	1.06
4	3.44	5.98	1.74	1.41	2.74	1.94	0.54	0.97	1.80	1.55	1.72	1.11
5	3.12	5.22	1.67	1.17	2.46	2.10	0.43	0.86	2.00	1.16	1.39	1.20
6	2.80	5.15	1.84	1.02	1.97	1.93	0.35	0.71	2.03	1.04	1.20	1.15
7	2.89	5.42	1.84	0.86	2.14	2.49	0.33	0.57	1.73	1.02	1.13	1.11
8	3.12	6.21	1.99	0.82	2.34	2.85	0.31	0.58	1.87	1.11	1.24	1.12
9	3.00	6.23	2.08	0.85	2.34	2.75	0.32	0.52	1.63	1.13	1.44	1.27
10	3.12	6.70	2.15	0.67	2.07	3.09	0.34	0.70	2.06	1.16	1.47	1.27
11	3.16	7.15	2.26	0.80	2.28	2.85	0.37	0.63	1.70	1.16	1.43	1.23
12	3.42	8.04	2.35	0.95	2.37	2.49	0.34	0.62	1.82	1.25	1.56	1.25
13	3.91	9.51	2.41	1.23	2.75	2.07	0.40	0.81	2.03	1.37	2.05	1.50
14	5.23	11.05	2.11	1.40	2.56	1.83	0.48	0.98	2.04	1.95	2.63	1.35
15	6.57	14.49	2.20	2.10	3.24	1.54	0.96	1.33	1.39	1.77	2.91	1.63
26				100	118	1.18	44	63	1.43	101	109	1.08
27				98	116	1.18	37	52	1.41	93	101	1.09
28				111	132	1.19	40	56	1.40	108	116	1.07
29				93	109	1.17	36	51	1.42	110	118	1.07
30				72	84	1.22	44	57	1.30	109	119	1.09
31				84	94	1.12	46	67	1.46	129	142	1.10
32				85	101	1.19	44	65	1.47	143	149	1.04
33				93	111	1.19	42	61	1.45	137	148	1.08

〔備考〕 ① T10~T15, 生産地価格は「農林統計」から算出, 卸売価格は「東京府統計表」から, S26~33は両市場価格ともに「価格調査」と「東京都中央卸売市場年報」から作成  
 ② 単位は, T10~S15 円/貫 S26~33 円/kg

は、大正一〇年以降、四魚種に限って行なう。第4表は、生産地・卸売両市場価格を比較したものである。この表の(B)/(A)は卸売市場価格の生産地市場価格に対する倍率を示したものである。だから、(B)/(A)が小さくなれば、両市場間の価格差は縮少し、大きくなればこの逆であること<sup>(1)</sup>を意味する。

価格差は魚種による差はあるが、大まかに言つて、つぎのような傾向を読みとることができる。大正末期から昭和初期にかけての価格差の縮少、昭和恐慌期における拡大、昭和一〇年代に入つてからの縮少である。この両市場価格の価格差の推移は、つぎのような諸要因の作用によるものと思われる。

すでに述べたように、大正中期における鮮魚の消費市場の拡大は、全国的な市場圏を確立させた。このため、問屋資本が生産者を緊縛していたとはいへ、需要増による荷引き競争が行なわれた。このため、生産者に対して問屋資本から分配される括弧<sup>(2)</sup>の産業利潤(以下「産業利潤」と表示する)も量的に増大した。このことが両価格差を縮少させた原因の一つである。第二には、水産物に対する需要の増大は、水産物市場の拡大・深化を結果し、これに伴つて、運輸手段、冷凍・保蔵施設の発展にも著るしいものがあつた。これらの発展は、生鮮食料品の特性としての流通段階における価値喪失を部分的に阻止しえた。この結果、生産地市場における価格の相対的騰貴がみられた。このため、両市場間の価格差が縮少した。

昭和恐慌期になると、問屋資本が「産業資本」を支配していたといふことは、恐慌の影響を「産業資本」に転嫁したことを意味する。つまり、恐慌の影響をもつとも弱い一環に皺寄せしたのである。この結果が両市場間の価格差の拡大となつて現われた。しかし、第4表のマグロにおける異常なほどの価格差の拡大には、別の事情が横たわる。それは、昭和六年〜七年以降——漁業に恐慌の影響がするどく現われたとき——マグロの対米市場が開拓されたことである。<sup>(3)</sup>そして、戦前の「農林統計」はすでにみたように、マグロのなかのすべての亜種(マグロ・メバチ・キワダ・ビンナガ等)を含んでいた。これらの亜種はそれぞれ使用

価値が異なり、したがつて価格差も大きい。対米市場向けマグロの大部分は、ビンナガおよびキワダである。このため、生産地市場で取扱うマグロと東京の卸売市場に登場したマグロとは、同じマグロと表示されながらも、異なつた使用価値をもつたものと思われる。要するに、昭和恐慌期におけるマグロの両市場間価格差の拡大は、恐慌の影響によるばかりでなく、統計上の不備も作用していると思われる。

昭和一〇年代に入ると、漁船動力化の第二期の進行に伴ない、漁業生産力は上昇し、「産業資本」もこれに応じて、その地位を高めた。一方、準戦時体制への突入によつて、生産者優位の鉄則<sup>(4)</sup>が作用しはじめた。この結果、問屋資本の力も弱まり、「産業資本」が産業資本として自立化する兆をみせる。このため、両市場間の価格差は縮少した。

戦後は、漁業における生産構造・流通構造ともに、戦前とは質的に異なる変貌をとげた。また、急速冷凍機などの技術的革新が普遍化されるにつれ、魚種によつては、生鮮食料品段階を超越したものもある。このため、生産地・卸売両市場間価格差は、戦前とは格段に縮少した。しかも乍らによるフラクチュエーションが小さく、一定率化の方向を示している。

注(1) ここで扱つた生産地市場価格は、全国平均で、卸売市場価格は東京市におけるものである。このため、たとえば昭和元年のブリのように、卸売価格のほうが小売価格より低いこともありうる。ここで問題としているのは推移そのもので、絶対値ではないことに留意されたい。

(2) 「産業利潤」とは、当時の未熟な「産業資本」に照応したものである。つまり、産業利潤からの分け前として産業利潤が分配されるのではなく、問屋資本が「産業資本」を支配し、産業利潤部分まで掌中にしていた段階における生産者の取得した利潤部分をこう呼ぶ。

(3) 米国市場向けマグロは、罐詰および冷凍品が主である。農林省水産局「輸出水産物ノ生産並ニ輸出統計表」によれば、アメリカカ向けマグロ罐詰輸出货量は、昭和八年以降急激に増大した。また、冷凍マグロは、昭和六年以降急速に輸出货量が増大した。たとえば、当時の文献は、この間の事情を、つぎのように伝えている。「一九三〇年迄は日本に於ける冷凍カチキの生産は微々たるものにして殆んど總ての漁獲高を日本に於て鮮魚の儘消費し居たり。冷凍事業の発展は……一九三〇年後迅速になれ



り、一九三四年の日本に於ける冷凍カデキの生産高は約一七五万封度に達せる見積にして其の内約九割は合衆国に輸出せられ一割は日本に於て消費せられたり。」(海洋漁業振興会『海洋漁業』第一巻・三号)ここでは、カデキとして表現されているが、このなかには、ビンナガおよびキワダが含まれている。

### 三、地域市場間価格差の推移

一般的には、産業資本・労働力の自由な移動がなく、全国的な市場圏が成立していないときには、同一量の労働が投ぜられて生産された同一の使用価値でも、その市場価格は異なる。局地的市場圏が全国的市場圏に包摂されれば、同一の使用価値をもつ商品には一物一価の法則が作用する。つまり、地域別に考察しても、市場価格は平準化するはずである。しかし、水産物はそのままのかたちでは耐久性のない生鮮食料品である。したがって、流通過程における高額な流通費の存在によって、全国的な市場圏が確立されてもなお、地域市場間価格差は存在しうる可能性もある。

いま、マグロ・カツオ・ブリ・サバの四魚種を取上げて「農林統計」による各魚種の主要生産県を各地域市場と考へ、その価格差の推移を追ったのが、第5表Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳである。地域市場間の価格差を係数的にみる場合には、いくつかの方法が考えられるが、ここでは、四分位偏差法を用いる。

戦前の地域市場間価格差の推移を第5表によって考察すると、つぎのようなことが指摘できる。水産加工品の使用価値が相対的に高いものは、地域市場間価格差が累年のみでも小さい点である。ここで取上げたものでは、カツオ・サバで、それぞれカツオブシ・塩蔵サバ・サバブシなどというバッファをもっている。水産加工品の流通費は、鮮魚に比べると格段の相異があるので、地域市場間価格差は一貫して小さい。これに対して、マグロ・ブリのように鮮魚としての使用価値が相対的に高いものは、流通費の存在によって、その絶対的価格差が大きい。このように、魚種による地域市場間価格差の推移の差異は認められる

が、四魚種総体の価格差の推移をみると、つぎのようなトレンドが知られる。地域市場間価格差は、大正中期に拡大し、末期から昭和初期にかけて縮小し、昭和恐慌期の拡大を経て、一〇年代になるとまたび縮小する。このような地域市場間価格差の推移にも、種々の要因の作用が考えられる。簡単に摘記すると、つぎのとおりである。

繰返し述べるように、水産物の全国的市場圏は、大正中期に成立した。これ以前の段階では局地的市場圏が優勢で、流通費そのものの比重は小さかった。これが全国的市場圏の成立により、辺鄙地から大消費地への鮮魚の供給が行なわれるようになって、流通費は大きく膨脹した。大消費地を基準に一物一価の法則が作用したとしても、生産地では——利潤部分の分配はここでは度外視する——大消費地の価格から流通費を控除した価格が実現されたのである。つまり、全国的市場圏の成立によって、かえって、地域市場間価格差は拡大したのである。このことは、つぎの事実によって裏書きされている。マグロを例にとれば、二、三の例外を除いては、マグロの最大の消費地である東京周辺の千葉県、神奈川県などの価格が上位に、北海道・青森県・岩手県・鹿児島県など辺地の価格が下位にあることである。

大正末期から昭和初期にかけての地域市場間価格差の縮小は、一般的な景気下降と照応したものである。景気後退に伴ない水産物商品の移動も頭打ちとなる<sup>(2)</sup>。一方、この間も進行した運輸手段、冷凍・保蔵施設の技術的発展は、水産物の価値喪失を防ぎ、流通費を押し下げた。

昭和恐慌期における地域市場間価格差の拡大は、当時における漁業生産階層の存在にその原因の一つを求めなければならない。昭和恐慌期には、すでに独占資本を頂点に、中小資本・小生産者にいたるまでの諸階層が存在していた。これら諸階層の分布には地域性があつた<sup>(3)</sup>。また、中小資本の多くも、「産業資本」でありながらも、資本としての成熟度に地域性がみられた。そして、恐慌の与える影響には階層差があつた<sup>(4)</sup>。つまり、地域的に「資本」としての成熟度が異なり、この「資本」成熟度の差が、恐慌に対する対応策の差なり、それがこの期の地域市場間価格差の拡大となって現われたと理解される。

第5表—I マグロの地域市場間価格差の推移 (T1～S15)

	北海道	青森	岩手	宮城	千葉	神奈川	静岡	三重	和歌山	徳島	高知	長崎	宮崎	鹿児島	最高	最低	全平均	四分位差
T1	0.51	0.50	0.55	0.59	0.93	1.59	1.07	0.63	1.00	—	0.73	0.86	0.77	0.64	1.59	0.50	0.71	2.91
2	0.51	0.39	0.73	0.54	0.91	1.46	1.03	0.65	0.83	0.71	0.75	0.78	0.78	0.59	1.46	0.39	0.67	2.25
3	0.45	0.43	0.72	0.51	0.81	1.07	0.88	0.63	1.14	0.80	0.73	0.74	0.72	0.58	1.14	0.43	0.68	2.31
4	0.57	0.39	0.55	0.45	0.91	0.98	1.02	0.68	0.70	0.65	0.72	0.65	0.66	0.46	1.02	0.39	0.69	2.36
5	0.55	0.40	0.57	0.48	1.04	1.12	0.80	0.80	1.06	0.47	0.47	0.67	0.81	0.61	1.12	0.40	0.69	2.83
6	0.73	1.02	0.89	1.22	1.47	1.18	1.08	1.08	1.48	1.11	1.06	1.16	1.19	0.67	1.48	0.67	1.06	1.25
7	0.60	1.05	1.85	1.01	2.07	2.13	1.74	2.22	2.02	1.22	1.34	1.48	2.68	1.35	2.68	0.60	1.30	2.69
8	0.97	1.24	1.76	1.48	2.66	2.03	3.02	2.89	2.32	1.24	2.56	1.87	2.47	1.77	3.02	0.97	2.04	3.90
9	1.08	2.09	1.62	0.92	2.83	4.56	2.94	2.57	2.26	—	2.25	1.68	2.79	1.44	4.56	0.92	1.98	3.83
10	—	2.50	1.66	1.19	3.64	3.69	2.62	2.61	2.76	1.47	2.83	1.83	2.86	1.33	3.69	1.19	2.17	4.29
11	1.96	2.68	1.92	1.38	3.85	—	2.46	2.43	3.10	2.51	2.60	2.12	2.77	1.38	3.85	1.38	2.26	3.06
12	1.63	2.10	2.21	1.76	3.64	2.72	2.58	2.77	2.93	1.91	2.45	2.07	2.62	1.84	3.64	1.63	2.55	3.21
13	1.55	2.61	1.83	1.74	3.42	3.50	2.44	2.54	2.75	1.65	1.75	2.10	2.62	1.69	3.50	1.55	2.21	3.46
14	1.46	2.25	2.22	1.41	3.40	3.85	2.20	2.68	2.95	1.50	1.90	2.01	2.17	2.03	3.85	1.41	2.20	4.07
S1	1.00	1.67	1.31	1.32	2.78	2.05	2.33	1.05	0.86	1.63	1.93	1.57	1.77	1.80	2.78	0.86	1.40	3.34
2	0.63	1.60	1.85	1.23	2.80	2.76	2.13	1.60	2.49	1.62	2.08	1.50	1.90	1.76	2.80	0.63	1.61	3.29
3	1.26	1.28	1.86	0.97	2.64	2.98	2.48	1.80	2.04	1.78	1.84	1.83	2.43	1.65	2.98	0.97	1.72	4.04
4	1.24	1.25	1.16	0.91	2.95	2.17	1.55	1.81	2.26	1.46	1.65	1.53	1.49	1.62	2.95	0.91	1.41	3.30
5	0.99	0.70	0.90	0.73	1.84	1.75	1.39	1.29	1.95	0.80	1.44	1.04	1.32	0.96	1.95	0.70	1.17	4.01
6	0.57	0.45	0.68	0.54	1.37	1.42	1.72	1.25	1.91	1.21	1.35	0.85	1.06	0.77	1.91	0.45	1.02	4.89
7	0.52	0.44	0.47	0.73	1.19	1.20	1.28	0.87	1.25	1.23	1.46	1.07	0.91	0.91	1.46	0.44	0.86	3.53
8	0.52	0.38	0.45	0.78	1.51	1.53	1.00	1.14	1.40	1.33	1.28	1.31	1.04	0.93	1.53	0.38	0.82	3.58
9	0.71	0.42	0.85	1.01	1.62	1.79	1.26	1.09	1.26	1.49	1.10	1.20	1.44	0.91	1.79	0.42	0.85	2.87
10	0.56	0.34	0.95	0.91	1.58	1.86	1.03	1.19	0.93	1.11	1.07	1.28	1.14	0.96	1.86	0.34	0.67	1.51
11	0.52	1.87	1.12	0.97	2.21	1.71	1.11	1.37	1.08	1.75	0.96	1.28	1.36	0.91	2.21	0.52	0.80	3.53
12	0.89	0.52	1.22	1.00	2.07	1.73	1.13	1.32	1.14	1.11	1.05	1.34	1.10	1.00	2.07	0.52	0.95	1.25
13	1.06	0.51	1.71	1.20	2.46	2.32	1.45	1.36	1.65	1.98	1.21	1.62	1.44	1.09	2.46	0.51	1.33	2.51
14	1.00	0.58	2.71	1.56	3.26	2.48	1.89	1.48	1.93	1.75	1.36	1.78	1.30	1.36	3.26	0.58	1.40	2.83
15	1.60	1.42	3.66	2.91	2.87	5.06	2.13	1.97	2.50	2.00	2.65	2.34	1.90	1.93	5.06	1.42	2.10	2.82
30																		
31															856	273	315	
32															840	296	324	
33																		

〔備考〕 ① 「農林統計」より作成

② 単位 円/貫

第5表-Ⅱ カツオの地域市場間価格差の推移 (T1~S15)

	千葉	神奈川	富山	静岡	三重	和歌山	徳島	愛媛	高知	長崎	宮崎	鹿児島	最高	最低	平均	四分位差
T 1	0.53	0.60	0.68	0.67	0.57	0.51	0.55	0.47	0.51	0.62	0.61	0.52	0.68	0.47	0.56	0.66
2	0.55	0.55	0.77	0.68	0.58	0.65	0.40	0.60	0.57	0.58	0.46	0.57	0.77	0.40	0.56	0.37
3	0.55	0.34	0.68	0.70	0.58	0.69	0.45	0.80	0.60	0.49	0.51	0.56	0.80	0.34	0.54	1.31
4	0.93	0.59	0.42	0.71	0.56	0.52	0.57	0.50	0.55	0.42	0.51	0.53	0.71	0.42	0.44	0.23
5	0.45	0.70	0.48	0.76	0.49	0.59	0.62	0.56	0.60	0.45	0.55	0.53	0.76	0.45	0.49	0.69
6	0.67	0.72	0.88	0.96	0.64	0.70	0.83	0.87	0.76	0.68	0.72	0.78	0.96	0.64	0.73	0.65
7	1.17	1.04	0.62	1.23	0.62	0.88	0.95	1.43	0.97	0.86	0.49	0.73	1.43	0.49	0.95	1.18
8	1.52	1.63	0.96	1.61	1.16	1.07	1.22	1.00	1.37	1.71	1.63	1.73	1.73	0.96	1.40	1.47
9	1.82	2.58	0.78	1.51	1.12	1.41	—	1.16	1.32	1.72	1.39	1.98	2.58	0.78	1.43	2.01
10	1.74	2.01	1.70	2.05	1.29	1.40	1.29	1.19	1.62	0.79	2.22	1.96	2.22	0.79	1.61	2.46
11	2.05	—	1.41	1.69	1.84	1.60	1.34	1.47	1.86	0.75	1.90	2.45	2.45	0.75	1.56	1.99
12	1.82	1.93	1.36	1.62	2.49	1.77	1.38	0.82	2.25	1.13	1.95	2.30	2.49	0.83	1.43	2.10
13	1.76	1.97	1.55	2.51	2.06	1.70	1.62	1.70	1.79	1.41	1.85	2.53	2.53	1.41	1.60	0.96
14	1.81	1.96	1.32	2.05	1.85	1.71	1.59	1.58	1.81	1.09	1.87	2.22	2.22	1.32	1.66	0.66
S 1	1.13	1.22	0.95	1.14	1.08	1.44	1.25	1.21	1.17	1.10	1.28	1.30	1.44	0.95	1.67	0.50
2	1.06	1.29	1.09	1.15	1.62	1.37	1.20	1.22	1.23	1.16	1.34	1.49	1.49	1.02	1.19	0.61
3	1.02	1.37	0.73	1.35	1.29	1.38	0.95	1.04	1.18	1.73	1.45	1.20	1.73	0.73	1.25	1.42
4	0.90	1.26	0.70	1.17	1.14	1.47	0.99	1.16	1.16	0.55	1.34	1.21	1.47	0.55	1.09	0.97
5	0.65	1.01	0.49	1.33	0.97	1.38	0.58	0.59	0.87	0.66	0.59	1.06	1.38	0.49	0.87	1.88
6	0.67	0.89	0.44	0.69	0.73	1.32	0.63	0.55	0.89	0.55	0.68	0.83	1.32	0.44	0.74	1.27
7	0.53	0.72	0.48	0.57	0.55	0.42	0.48	0.48	0.66	0.68	0.52	0.90	0.90	0.42	0.57	1.03
8	0.66	0.85	0.24	0.76	1.00	0.67	0.76	0.53	0.74	0.79	0.65	0.82	1.00	0.24	0.72	0.65
9	0.69	0.79	0.33	0.80	0.78	0.65	0.46	0.42	0.58	0.82	0.66	0.84	0.84	0.33	0.63	1.03
10	0.54	0.77	0.39	0.80	0.68	0.54	0.52	0.62	0.60	1.00	0.62	0.76	1.00	0.39	0.65	1.05
11	0.69	0.75	0.38	0.82	0.66	0.64	0.54	0.61	0.66	0.59	0.74	0.70	0.99	0.38	0.59	0.46
12	0.57	0.82	0.39	0.79	0.78	0.60	0.60	0.50	0.67	0.71	0.71	0.82	0.82	0.39	0.59	0.68
13	0.93	0.84	0.63	0.82	0.85	0.72	0.49	0.38	0.64	0.96	0.78	0.90	0.96	0.38	0.68	0.75
14	1.30	1.18	1.14	1.19	0.59	1.18	0.78	0.74	0.98	1.10	1.20	1.46	1.46	0.74	1.07	0.65
15	1.08	1.16	0.93	1.45	1.20	1.27	1.09	1.00	1.28	2.88	1.66	1.52	2.88	0.93	1.32	1.04
30													370	162	253	
31													309	186	233	
32																
33																

第5表一Ⅱ プリの地域市場間価格差の推移 (T1～S15)

	岩手	神奈川	静岡	富山	石川	福井	三重	京都	島根	山口	高知	長崎	宮崎	鹿児島	最高	最低	全国平均	四分位差	
T 1	(0.31)	0.64	0.86	0.79	0.79	0.62	0.85	0.81	0.69	1.02	0.52	0.69	0.91	0.58	1.02	0.52	0.71	1.89	
2	(0.31)	0.68	1.16	0.70	0.75	0.72	0.83	0.83	(0.77)	1.05	0.53	0.74	1.00	0.66	1.16	0.53	0.75	2.54	
3	(0.55)	0.64	0.71	0.89	0.79	(0.78)	0.84	0.98	(0.77)	1.05	0.55	0.70	0.89	0.54	1.05	0.54	0.71	2.28	
4	(0.43)	0.64	0.65	1.11	0.76	(0.87)	0.72	1.12	(0.87)	0.74	0.61	0.74	0.50	0.47	1.12	0.47	0.63	2.40	
5	0.65	0.54	0.65	0.77	0.58	0.82	0.74	1.13	(0.72)	0.86	0.62	0.75	0.49	0.50	1.13	0.49	0.66	1.49	
6	(0.47)	0.57	0.88	1.00	1.07	(0.92)	0.83	(1.67)	(1.00)	0.95	0.75	1.15	0.53	0.68	1.15	0.53	0.80	2.05	
7	0.86	0.99	1.17	1.06	1.48	(2.00)	1.60	2.01	1.19	1.69	1.06	1.52	0.89	1.25	2.01	0.88	1.24	2.37	
8	1.03	1.23	1.72	1.43	1.79	(2.93)	2.11	2.17	(2.15)	2.34	1.79	2.08	(1.37)	1.96	2.34	1.03	1.70	2.37	
9	1.17	1.73	2.72	1.68	2.25	1.77	2.15	1.75	(1.88)	2.87	1.70	1.89	2.11	3.09	3.09	1.17	1.88	2.18	
10	1.31	1.73	2.63	2.40	2.19	1.84	2.63	(3.62)	1.47	2.72	2.39	2.38	2.43	3.32	3.32	1.31	2.16	2.90	
11	0.91	—	2.86	2.50	2.07	1.50	2.56	(2.48)	(1.80)	3.23	2.40	2.28	2.27	3.47	3.47	0.91	2.25	2.01	
12	1.06	1.61	2.83	2.41	2.12	1.80	2.40	(2.55)	(2.19)	2.29	2.28	1.92	2.61	3.75	3.75	1.06	2.14	2.66	
13	1.24	1.71	2.95	2.56	2.73	1.29	3.43	(2.50)	(2.16)	2.81	2.33	1.79	2.15	2.61	3.43	1.24	2.11	3.68	
14	1.20	1.46	2.70	(3.15)	(1.81)	0.92	3.59	(2.58)	(2.16)	2.53	1.95	1.91	2.13	2.37	3.59	0.92	1.97	2.61	
S 1	1.27	1.16	2.08	2.39	2.01	0.83	2.04	(2.06)	(1.92)	2.33	1.93	1.53	1.97	1.77	2.39	0.83	1.69	2.77	
2	0.87	1.20	2.63	2.60	1.96	1.02	2.05	(2.20)	(1.77)	(2.17)	1.83	1.18	1.90	1.61	2.63	0.87	1.49	4.31	
3	0.96	1.84	2.08	2.69	1.95	1.12	2.04	(2.22)	1.37	(2.14)	1.93	1.23	2.12	1.51	2.69	0.96	1.70	4.04	
4	1.11	1.57	1.80	2.60	(2.92)	1.33	1.90	(2.68)	1.60	(2.06)	1.90	1.01	2.11	1.40	2.60	1.01	1.55	4.38	
5	0.55	1.50	1.40	1.68	(2.34)	0.88	1.79	(1.75)	1.31	1.03	1.12	0.87	(1.72)	1.36	1.79	0.55	1.16	4.19	
6	0.49	1.17	1.21	1.57	1.33	0.65	1.65	(1.22)	1.00	1.38	0.79	0.88	1.19	1.02	1.65	0.49	1.04	3.30	
7	0.39	1.18	0.88	1.65	1.02	0.67	1.18	(1.62)	1.07	1.26	0.99	0.97	1.13	0.68	1.65	0.39	1.02	2.52	
8	0.73	1.03	1.28	1.57	1.34	0.73	1.41	1.65	1.15	1.20	1.29	0.98	1.72	0.83	1.72	0.73	1.11	2.83	
9	0.79	1.29	1.27	1.45	1.38	0.35	1.53	1.52	0.97	1.23	1.16	0.84	1.56	0.94	1.56	0.35	1.13	2.92	
10	0.70	0.97	1.26	1.73	(1.68)	(1.05)	1.27	(2.18)	1.22	1.52	1.32	1.11	1.04	1.04	1.73	0.70	1.16	2.68	
11	0.66	0.99	1.30	1.47	1.42	0.83	1.12	(1.60)	1.09	1.27	1.17	1.20	1.18	0.94	1.47	0.66	1.16	1.82	
12	(0.32)	1.07	1.17	1.84	1.30	0.58	1.18	(1.75)	1.06	1.22	1.31	1.10	1.44	1.02	1.84	0.58	1.25	1.27	
13	(1.09)	1.47	1.42	2.37	(1.88)	0.94	1.53	(2.18)	1.61	1.47	1.65	0.98	1.32	1.40	2.37	0.94	1.37	2.01	
14	2.33	2.32	1.80	3.34	2.47	1.17	2.12	(2.91)	2.16	1.71	2.74	1.73	1.86	2.18	3.34	1.17	1.95	2.72	
15	(3.00)	2.31	1.94	2.93	2.62	1.52	2.64	(3.19)	2.49	2.78	2.28	1.05	2.58	2.54	2.93	1.05	1.77	2.17	
30															723	308	484		
31															858	257	539		
32																			
33																			

〔備考〕 ① 第5表一Iと同じ ② ( ) は10万貫未満の漁獲量るときで、四分位偏差算出には除外した

第5表-VI サバの地域市場間価格差の推移 (T1~S15)

	北海道	岩手	千葉	神奈川	新潟	富山	石川	福井	静岡	三重	和歌山	京都	兵庫	鳥取	島根	山口	愛媛	高知	福岡	長崎	大分	宮崎	鹿児島	最 高	最 低	全平 均	四偏 分位差	
T 1	0.14	(0.21)	0.37	0.60	0.24	(0.47)	0.27	0.17	0.45	0.52	(0.54)	(0.27)	0.37	0.28	0.39	0.33	0.30	0.56	(0.59)	0.22	0.38	0.37	0.31	0.60	0.14	0.28	1.83	
2	0.14	(0.24)	0.26	0.46	0.37	(0.33)	0.15	0.18	0.49	0.49	0.43	0.30	0.33	0.24	0.22	0.42	0.41	0.60	(0.57)	0.23	0.38	(0.39)	0.48	0.60	0.14	0.28	1.69	
3	0.13	(0.19)	0.32	0.57	0.32	(0.34)	0.15	0.20	0.24	0.34	0.35	0.40	0.35	0.24	0.39	0.35	0.20	0.39	(0.50)	0.21	0.56	0.25	0.30	0.57	0.13	0.28	1.19	
4	0.16	(0.17)	0.30	0.37	0.26	(0.45)	0.18	0.20	0.40	0.40	0.34	(0.19)	0.36	0.28	0.24	0.35	0.14	0.46	(0.30)	0.48	0.13	0.36	0.32	0.27	0.48	0.14	0.26	1.45
5	0.13	0.16	0.33	0.53	0.21	(0.52)	0.22	0.21	0.41	0.32	0.28	(0.30)	0.31	0.28	0.19	0.34	0.20	0.42	(0.30)	0.15	0.40	0.36	0.23	0.53	0.13	0.25	1.36	
6	0.22	—	0.38	0.52	0.32	(0.54)	0.25	0.29	0.48	0.40	0.44	(0.48)	0.34	0.23	0.36	0.39	0.29	0.53	(0.48)	0.25	0.46	0.30	0.24	0.53	0.22	0.33	1.15	
7	0.29	(0.31)	0.59	0.74	0.32	(0.66)	0.30	0.40	0.77	0.55	0.84	(0.71)	0.42	0.49	0.59	0.55	0.46	0.83	(0.84)	0.18	0.92	(0.84)	0.56	0.92	0.29	0.41	1.41	
8	0.29	(0.35)	0.59	0.48	0.50	0.47	0.57	0.57	0.04	0.74	1.20	0.27	0.49	0.72	0.67	0.88	0.51	1.15	(1.08)	0.25	1.25	0.76	0.95	1.25	0.25	0.56	1.48	
9	0.25	(0.17)	0.94	1.04	0.52	0.63	0.41	0.55	1.52	1.13	1.00	0.92	0.87	0.89	0.65	1.00	0.48	1.67	(0.71)	0.53	1.10	0.86	0.76	1.67	0.25	0.74	1.56	
10	0.20	0.25	1.06	1.51	0.71	0.77	0.34	0.56	1.21	1.04	0.81	0.82	0.74	0.23	0.67	0.59	0.42	1.70	(0.90)	0.39	1.19	1.00	0.67	1.70	0.20	0.62	1.63	
11	0.28	0.42	0.95	—	0.55	0.61	0.38	0.46	1.32	1.00	0.96	0.71	0.63	0.54	0.71	0.60	0.66	1.50	(0.71)	0.55	1.27	0.73	0.69	1.50	0.28	0.64	1.69	
12	0.23	0.30	0.84	0.91	0.60	0.64	0.34	0.38	1.11	0.60	0.84	0.86	0.58	0.54	0.66	0.62	0.54	1.22	(0.93)	0.61	1.30	0.50	0.68	1.20	0.23	0.60	1.27	
13	0.23	0.39	0.63	1.01	0.77	0.77	0.39	0.41	1.18	0.98	0.74	1.11	0.51	0.52	0.66	0.66	0.73	1.05	(0.91)	0.48	2.01	0.74	0.64	2.01	0.20	0.64	1.74	
14	0.22	0.40	0.66	0.98	0.75	0.68	0.49	0.39	1.29	0.85	0.47	1.01	0.52	0.55	0.38	0.69	0.59	1.15	(1.01)	0.53	1.51	0.73	0.62	1.51	0.22	0.64	1.83	
S 1	0.16	0.30	0.58	0.75	0.36	0.76	0.44	0.36	1.00	0.73	0.78	0.79	0.61	0.66	0.66	0.80	0.67	1.21	(0.77)	0.47	0.72	0.67	0.72	1.21	0.16	0.60	1.28	
2	0.10	0.20	0.71	0.87	0.30	0.86	0.43	0.48	0.81	0.63	0.71	0.77	0.69	0.52	0.63	0.69	0.52	1.10	(0.69)	0.56	0.57	0.49	0.67	1.10	0.10	0.55	1.03	
3	0.17	0.18	0.59	0.72	0.30	0.69	0.45	0.49	0.86	0.85	0.78	0.71	0.61	0.51	0.61	0.68	0.69	0.96	(0.72)	0.58	(0.74)	0.51	0.64	0.96	0.17	0.58	0.95	
4	0.17	0.18	0.49	0.67	0.36	0.83	0.39	0.50	0.63	0.76	0.72	0.79	0.70	0.51	0.55	0.63	0.81	1.01	(0.72)	0.46	(0.74)	0.30	0.76	1.01	0.17	0.54	1.41	
5	0.11	0.12	0.35	0.55	0.31	0.49	0.28	0.42	0.50	0.57	0.55	0.49	0.69	0.28	0.47	0.52	0.61	0.69	(0.69)	0.38	0.50	0.42	0.62	0.69	0.11	0.43	1.29	
6	0.09	0.29	0.26	0.45	0.30	0.44	0.33	0.42	0.31	0.47	0.43	0.37	0.56	0.38	0.37	0.50	0.51	0.60	(0.55)	0.26	(0.60)	0.35	0.38	0.60	0.09	0.35	1.26	
7	0.10	0.11	0.25	0.34	0.29	0.46	0.32	0.36	0.40	0.40	0.32	0.41	0.39	0.36	0.40	0.43	0.55	0.56	(0.55)	0.26	0.27	0.27	0.47	0.56	0.10	0.33	0.96	
8	0.08	0.12	0.26	0.38	0.29	0.46	0.34	0.37	0.29	0.51	0.33	0.47	0.28	0.37	0.41	0.51	0.48	0.55	(0.55)	0.31	0.33	0.28	0.29	0.55	0.08	0.31	0.88	
9	0.09	0.19	0.26	0.34	0.28	0.47	0.37	0.33	0.28	0.43	0.36	0.43	0.49	0.42	0.42	0.38	0.27	0.53	(0.50)	0.29	0.36	0.39	0.29	0.53	0.09	0.32	0.74	
10	0.14	0.21	0.35	0.34	0.54	0.44	0.44	0.41	0.28	0.43	0.51	0.49	0.58	0.39	0.43	0.42	0.54	0.67	(0.70)	0.34	0.47	0.32	0.49	0.70	0.14	0.34	0.85	
11	0.16	0.19	0.29	0.44	0.23	0.43	0.50	0.37	0.36	0.40	0.49	0.48	0.57	0.41	0.40	0.46	0.54	0.60	(0.59)	0.32	0.38	0.35	0.39	0.60	0.16	0.37	0.69	
12	0.24	0.26	0.27	0.36	0.28	0.46	0.39	0.34	0.25	0.38	0.49	0.50	0.53	0.44	0.42	0.40	0.41	0.44	(0.53)	0.24	0.43	0.45	0.29	0.53	0.24	0.34	0.63	
13	0.15	0.25	0.46	0.43	0.70	0.59	0.34	0.61	0.31	0.53	0.51	0.63	0.65	0.52	0.36	0.57	0.50	0.71	(0.77)	0.46	0.53	0.44	0.55	0.77	0.15	0.40	0.72	
14	0.20	0.46	0.59	0.62	0.77	0.76	0.60	0.73	0.47	0.74	0.90	0.77	0.98	0.82	0.72	0.70	0.80	0.87	(0.81)	0.63	0.96	0.79	0.83	0.98	0.20	0.48	0.67	
15	0.47	0.72	0.92	0.87	1.20	1.13	1.10	1.04	0.84	0.85	1.41	1.34	1.33	1.34	1.10	0.80	0.81	1.55	(0.88)	0.92	(0.93)	0.96	1.05	1.55	0.47	0.96	1.12	
30																								273		173		
31																								279		69	165	
32																									84			
33																												

恐慌からの回復後、昭和一〇年代に入ると、地域間市場価格差は縮小してくる。これは、前節でも述べたように、漁業生産力の発展——漁船の大型化・高装備化——の結果、「産業資本」に市場選択権が与えられたことが大きく作用している。さらに、一貫した流通過程における生産力の発展も、中間経費のコスト・ダウンをさせたことはいままでもない。戦後の地域市場間価格差は、論理的にいえば、戦前に比して縮小しているはずである。しかし、戦前と戦後とでは統計の方法がまったく異なるので、ここでは比較しない。

注(1) 四分位偏差法とは、四分位偏差を算出する方法である。地域市場別に高価格から低価格に一連に並べる。そして、高価格・低価格のそれぞれ1/4を切捨てる。残った1/2の両端にある価格を $Q_1$ ・ $Q_2$ とする。

$$\text{四分位偏差} = \frac{Q_1 - Q_2}{2}$$

によって与えられる。

ここで四分位偏差を用いたのは、つぎのような理由による。水産物がある地域市場に偶発的に多量水場がなされた場合には、きわだった価格の暴落がみられる。また逆の場合もある。そこで、これらの影響を排除する意味から採用した。

(2) 鉄道省運輸局『貨物運輸統計』第一巻・同省同局『鉄道統計年報』によれば、鉄道による水産物の輸送状況の推移は、つぎのとおりである。活鮮魚介類についていうと、大正中期から末期にかけて発送トン数・トン平均輸送距離ともに増大している。大正九年を一〇〇とした指数で、発送トン数は大正一二年まで、対前年比およそ一〇%の伸長を示している。一三年以降はこの伸長率が鈍化し、昭和恐慌期以降減少し昭和一〇年代に著しい伸長がみられる。また、一トン平均輸送距離は、大正九年を一〇〇とした指数で、一一年まで対前年比およそ一〇%の伸長を示すが、以後昭和恐慌期まで停滞し、昭和三、四年に著しい伸長がみられ、それ以後大した変化はない。

(3) たとえば現代日本産業発達史研究会『現代日本産業発達史講座、第一九巻、水産』、図説「漁業発達の地域構造」を参照されたい。

(4) たとえば、拙稿「水産物の価格形成(Ⅱ)」(『漁業経済研究』第一一巻二号所収)の五七頁以下を参照されたい。

#### 四、水産物の価格形成に作用する諸要因の分析

水産物の価格形成に作用する諸要因としては、いろいろなものが考えられる。しかし、ここでは、計量することができ、しかも価格形成に大きく作用すると思われる要因として、漁獲量・消費量・生産力を取りあげて、その相関関係の分析を中心として討究しよう。

##### (1) 漁獲量

まず、戦前における漁獲量と価格との関係をみよう。戦前においては両者の関係を総合的にみることでできる統計はない。そこで魚種別に検討する。横軸に数量を、縦軸に実質価格をとり、累年のドットする、ニシン・イワシ・サバ・サンマ・サケ・コンブには、大体負の相関が認められる<sup>(1)</sup>、つまり、長期的に観察したとき(明治三〇年～昭和一五年)漁獲量の増大に応じて、価格下落がはっきり認められる。

これに対して、マグロ・ブリ・カツオ・タイ・アジ・カレイ・エビなどは、別様なかたちをとる。このなかでも、典型的な推移を示すマグロを例にとつて述べると、つぎのとおりである(図は省略する<sup>(2)</sup>)。マグロの示すドットは、全期間を通じて眺めると、法則性はない<sup>(3)</sup>。しかし、一般的に景気循環に依りて、負の相関に近い関係がみられる。つまり、一八九七(明治三〇)年～一九〇七(明治四〇)年、一九〇八(明治四一)年～一九二〇(大正九)年、一九二一(大正一〇)年～一九二九(昭和四)年、一九三〇(昭和五)年～一九四〇(昭和一五)年の四つの時期に区切ることができる。そして、この一時期ごとには、負の相関に近い関係がみられるが、第三期、第四期についてはそれも分明ではない。しかし、第一期から第二期、第三期と進むにつれ、相関線が上方に平行移動したような傾向を示している。

このことは、第一期～第三期においては、漁獲量には大きな変化がなく、各期への移行に際して、価格の飛躍的上昇——跳躍——があったことを意味する、マグロのようなドットを示す魚種の多くは、バッファーである水産加工品の使用価値が相対的に低い<sup>(3)</sup>。このため、つぎの項でみる

ように、鮮魚の消費量の増大（水産物消費市場の拡大、深化）により、この跳躍が行なわれたものと理解される。

戦後における漁獲量と水産物価格との関係は、総合的に捉えることができる。戦後では、東京中央卸売市場などによって、卸売価格ではあるが、総合魚価が発表されている。そこで、総合魚価と総漁獲量との関係をみよう。この場合、総漁獲量は全国のもので、総合魚価は東京都中央卸売市場の卸売価格で、生産地市場価格ではない。しかし、第一章でみたように、戦後では東京中央卸売市場価格は、生産地市場価格を強く反映しているので、充分使用に耐えうるものと思われる。

以上の資料から実質価格を算出し、昭和二六年～三三年の漁獲量と価格との相関係数を算出すると、 $r = +0.564$ である。つまり、戦後では、水産物価格と漁獲量との間には、単純な相関係数は認められない。また、魚種別にみても、単純な相関係数は成立していない。たとえばマグロ（戦後では、前にみたように、その亜種に分類されているので、ここではキワダを登場させる）とイワシ（マグロと同様に、ここではマイワシ）について相関係数を算出すると、つぎのとおりである。

（キワダ） $r = -0.68$  （マイワシ） $r = -0.48$

注（1）これらの魚種の戦前（明治三〇年～昭和一五年）における相関係数を算出すると、つぎのとおりである。ニシン（ $-0.95$ ）、コンブ（ $-0.91$ ）、サンマ（ $-0.90$ ）、イワシ（ $-0.87$ ）、サケ（ $-0.75$ ）、サバ（ $-0.73$ ）。なお、この相関係数の算出は、つぎのような方法によった。「農林統計」の大正三年までは全漁獲物、大正四年以降は、沿岸漁業・内地沖合遠洋漁業・汽船トロール漁業（タイ類のみ除く）の全漁獲物を分析の対象とする。魚価についてはすべて、すでに述べた方法で、実質価格化した。対象期間を五カ年毎に区切り五カ年平均の漁獲量および実質価格をそれぞれ $x \cdot y$ として行なった。

（2）注（1）と同じ方法で、同じ期についてこれら魚種の漁獲量と実質価格との相関係数を算出すると、つぎのとおりである。タイ（ $-0.44$ ）、カレイ（ $-0.24$ ）、カツオ（ $-0.09$ ）、マグロ（ $+0.18$ ）、ヒョ（ $+0.30$ ）、アジ（ $+0.49$ ）、ブリ（ $+0.49$ ）。このように、マグロについて述べたように、いくつかの期に区切ればとにかく、通覧したときには、単純な相関係数は認められない。

（3）ちなみに、「農林統計」に「水産製造物」として継続的に記載のある対象魚種の水産加工品をつぎに摘記しよう。二つのグループの水産加工品が使用価値的にみて、どのような違いがあるか窺知されよう。

「相関係数の認められたもの」  
ニシン——ミカキ・カズノコ・燻製・塩蔵・シボリ粕・油  
イワシ——素干・煮干・塩蔵・節・シボリ粕・油・ホシカ  
サケ——燻製・塩蔵

サンマ——塩蔵  
サバ——塩蔵・塩蔵・節  
「相関係数の認められなかったもの」  
マグロ——節

ブリ——塩蔵

カツオ——節

アジ——塩蔵

エビ——煮乾

ここにあげたものが、これら魚種の水産加工品のすべてではない。しかし、「農林統計」に対象期間を通じて継続的に取り上げられたことは、これらの商品が社会的に大きな意味をもっていたからである。第二のグループの水産加工品のなかには、カツオ蒲シ以外使用価値の高いものはない。

## （2）消費量

戦後は水産物の消費量に関する統計も完備された。農村については、農林省統計調査部による「農家経済調査物統計報告」がある。また、都市については、総理府統計局による「家計調査報告」がある。この両者を通覧することによって、水産物の需要量を累年のに追うことができ。だが、戦前については、継続的に分析しうる資料は皆無に等しい。

そのため、戦前については、東京市役所庶務課『主要貨物集散調査書』によって水産物消費量の推移を間接的に探ってみよう。この調査は、大正二年から昭和十一年まで、東京市に流入・流出する主な貨物を経路別（海運・河川運・鉄道）に調査したものである。このなかに、水産物としては、生鮮魚・塩干魚が記載されている。戦前においては、生鮮魚の大部分は、貯蔵・保管が行なわれたとしても、短期的なものであ

第6表 東京市における生鮮魚消費量の推移

	到			着			送			消費量 (A)-(B)	指数	東京市人口 (千人)	1人当 消費量 (kg)	指数
	海 運	河川運	鉄 道	海 運	河川運	鉄 道	海 運	河川運	鉄 道					
T 3	8,423		54,776	59		9,294	9,353		53,846	30	2,892	19	58	
4	15,241		60,121	88		15,716	15,804		59,558	33	3,056	19	58	
5	18,735		58,465	105		10,744	10,849		66,351	37	3,150	21	64	
6	19,807		65,349	—		12,600	12,600		72,556	40	3,304	22	67	
7	22,503	494	75,560	—	254	15,263	15,517		83,040	46	3,330	25	76	
8	25,718	719	187,666	—	324	17,786	18,110		95,993	53	3,438	28	85	
9	66,612	44	106,628	—	223	13,425	13,648		159,636	89	3,351	48	145	
10	36,066	30	120,723	—	134	11,786	11,920		144,899	81	3,460	42	127	
11	36,628		127,837	1		10,299	10,300		154,165	86	3,575	43	130	
12	9,915		122,012	—		10,480	10,480		121,447	67	3,689	33	100	
13	50,258		140,514	2,512		9,137	11,649		179,123	99	3,610	49	148	
14	46,218	22	132,897	25	106	8,570	8,701		170,436	94	4,100	42	127	
S 1	61,355	20	135,693	2,261	97	10,931	11,289		185,779	103	4,250	44	133	
2	49,291	23	114,134	146	92	10,814	11,052		152,396	84	4,403	35	106	
3	53,293	34	119,980	145	96	10,078	10,319		162,988	91	4,557	36	109	
4	64,044	20	119,990	26	17	9,269	9,312		174,742	97	4,714	37	112	
5	68,239	21	113,971	—	2	6,603	6,605		175,626	98	4,971	35	106	
6	76,413	15	113,807	144	2	8,771	8,914		181,318	101	5,140	34	103	
7	69,353	18	103,265	144	—	4,187	4,331		168,305	93	5,312	32	97	
8	74,616	148	109,842	69	—	4,671	4,740		179,866	100	5,486	33	100	

【備考】

① 各年次東京市役所庶務課「主要貨物集散調査」より作成

② 東京市の人口は各年次「東京市統計書」による

③ T11～13の河川運は到着発送とも不明

④ T3～T5の海運は水運を意味し、河川運を含む

⑤ 単位はトン

⑥ 昭和7年に荏原、豊多摩、北豊島、南足立、南葛飾の5郡が東京市に編入されたため、昭和7年以前は比較のためこれら5郡を含めた数字を東京市人口としている。



つたろう。したがって、この調査による搬入量から搬出量を差引いたものを、東京市における消費量とみても差支えないだろう。

ところでここで問題としているのは、全国的な規模で、東京市のそれではない。しかし、資料的な制約・消費地市場としての東京市の地位を考慮すれば、この資料を基に分析を進めることは無謀ではあるまい。

さて、第6表は、東京市における生鮮魚の搬入量マイナス搬出量を消費量とみなし、その推移を一覧したものである。これによると、東京市における生鮮魚の消費量は、大正九年以降急速に増加している。昭和八年を一〇〇とした指数で、大正八年から九年にかけて、五三から八九へと伸長している。これ以後は、大正一二年の関東大震災によるエアー・ポケットを度外視すれば、漸増傾向を辿っている。

東京市の消費量総体としてみれば、以上のような推移をたどるが、つぎに、東京市の人口一人あたりの消費量の推移をみよう。大正初期から漸増傾向にあった消費量は、大正中期（とくに、八年から九年にかけて、昭和八年を一〇〇とした指数で、八五から一四五へ）に、急激な増加を示す。この後、大正末期から昭和期にかけて、年による振動はあるが、横這いしないしは漸落傾向に転ずる。

水産物価格が大正中期に急激に上昇したことについては、すでに述べた。これは、いまここで考察した大正中期における水産物に対する需要の増加と照応したものである。この大正中期における水産物消費量の増大の原因は、いままで述べてきたように、都市への人口の集中、またこの集中した人口が蛋白質源食料品へ需要の傾斜を強めたことに求めなければならない。また、この期に農産物価格と労賃水準に格差が生じ、これが水産物など蛋白質源食料品の消費に向けられたことについても、すでに述べた。このため、使用価値として劣る水産加工品に代って、生

第7表 東京市における塩干魚消費量の推移

	到		着		発		送		消費量 (A)-(B)	同 指数
	海 運	河川運	鉄 道	合 計(A)	海 運	河川運	鉄 道	合 計(B)		
T 3	47,564		15,970	63,534	4,299		23,142	27,441	36,093	79
4	29,792		19,540	49,132	5,197		25,183	30,380	18,752	41
5	27,899		25,171	53,070	6,536		21,996	28,532	24,538	54
6	31,402		21,857	53,259	8,914		19,505	28,419	24,840	54
7	28,976		17,307	46,283	4,666	735	15,957	21,358	24,925	55
8	30,311		17,023	47,334	2,981	876	15,165	19,022	28,312	62
9	27,301	55	15,846	43,202	2,764	508	20,009	23,281	19,921	44
10	20,501	45	16,402	36,948	2,163	366	16,689	19,218	17,730	39
11	13,230		11,932	25,162	1,689		15,532	17,221	7,941	17
12	11,029		11,748	22,777	1,193		11,754	12,947	9,830	22
13	8,757		14,754	23,511	513		8,886	9,399	14,112	31
14	7,593	134	23,004	30,731	954	240	6,367	7,561	23,170	51
S 1	6,543	125	30,653	37,321	583	227	8,292	9,102	28,219	62
2	6,692	151	55,212	42,055	111	241	6,841	7,193	34,862	77
3	4,217	136	58,559	42,912	278	259	7,379	7,916	34,996	77
4	6,250	129	29,858	36,237	403	240	4,608	5,251	30,986	68
5	4,103	355	30,639	35,099	58	380	4,391	4,829	30,270	66
6	8,242	477	32,917	41,636	184	100	5,321	5,605	36,031	79
7	4,712	716	35,719	41,147	421	51	5,642	6,114	35,033	77
8	7,746	597	41,169	49,312	121	54	3,530	3,705	45,607	100

〔備考〕 第6表におなじ

鮮魚の需要が強まった。これが前節で述べたマグロなど鮮魚としての使用価値の高い魚種を中心に、相関線を上へ平行移動させたと思われる。

第7表には、前掲『主要貨物集散調査書』によって、東京市における塩干魚消費量の推移を示した。塩干魚の場合には、貯蔵・保管も比較的長期的に行なわれるし、ときには、その操作によって投機の対象ともなりうる。また、生鮮魚よりその商品の性質から、搬出量が直接東京市内の消費量とならない部分も多いだろう。したがって、ここでいう搬入量マイナス搬出量としての消費量は、括弧付きの消費量であろう。しかし、大体の傾向は知りうるので、これを基に論議を進める。

さて、第7表によると、塩干魚の消費量は、生鮮魚の消費量が急激に伸びた大正中期（とくに八年～九年）に、急減する。そして、生鮮魚のそれが伸長する大正期は、塩干魚の消費量は、減少の一途を辿る。昭和期に入り生鮮魚の消費量が頭打ちになると、塩干魚の消費量が増大してくる。このことは、生鮮魚・塩干魚が社会的購買力において代替性をもつことを示している。つまり、相対的な所得水準の上昇は、使用価値の高い、価格も高い生鮮魚の需要に斜傾を強め、逆の場合には、使用価値としては劣るが、価格の安い塩干魚へ需要の傾斜を強めたと思われる<sup>(4)</sup>。

以上のような検討から、大正中期における水産物（とくに鮮魚としての使用価値の高いマグロなど）価格の高騰は、消費量の増加に照応したものであることが指摘できる。また、大正末期から昭和期にかけての水産物価格の下落は、漁業生産力の発展による価値の低下も一つの要因を構成するが、一般的な景気下降に伴う消費量の頭打ちによるものと思われる。

戦後については、ここで対象としているのは、昭和二六年～三三年の期間である。この期間について、消費量と価格との相関係数を求める<sup>(5)</sup>と、 $r = -0.434$ である。この対象期間のみについていえば、両者の間に単純な相関関係はない。

注(1) 権田保之助「本邦家計調査」(改造社『経済学全集・第五二巻本邦社会統計論』所収)は、戦前の家計調査を網羅している。このうち水産物が対象として取上げられているのは、つぎの三つの調査である。大正五年施行「高野博士の二〇職工家計調査」、大正八年施行「高野博士の月島

労働者家計調査」「高野博士の東京及附近小学校教員家計調査」および大正一五年施行「内閣統計局の家計調査結果概要」がそれである。ここで問題としたいのは、大正期以降の需要構造の変化である。ところが、これらの諸調査は調査客体も少く(大正五年二〇、大正八年両者合わせて六五)、また断続的であるので、系統的に使用できない。大正一五年の内閣統計局の調査は、調査客体も五、五〇〇となり、また、この調査は、昭和六年以降は累年のに行なわれている。したがって、昭和六年以降の需要構造の変化を知る手掛りはある。

(2) ここで対象期間を大正三年～八年に限定したのは、つぎのような理由による。大正二年は資料がえられず、昭和九年～一一年は搬出量に輸出量が合算されている。

(3) 東京市は、昭和七年に府下五郡(荏原・豊多摩・北豊島・南足立・南葛飾)を合併した。一人あたり消費量の算出には、昭和六年以前についても、これら五郡の人口を東京市のそれに合算した。

(4) 昭和期に入ると、トラック輸送がある程度の意味をもってくる。塩干魚は生鮮魚に比べて、相対的にトラック輸送に依存する比率が高いので、若干割引いて考える必要がある。

(5) ここで用いた消費量は、「家計調査」と「農家経済調査物財統計」との平均値をとった。価格は「東京都中央卸売市場年報」の「滷合魚価」をデフレートして実質価格としたものを使った。

### (3) 生産力

漁業における生産力を跡づける資料はきわめて乏しい。生産力を示す指標として一人あたりの生産量をとれば、それを知る手掛りは、戦前は「農林統計」以外にない。「農林統計」の「内地沖合遠洋漁業」の項に、漁業種類別(旋網・沖曳網・流刺網・延縄・一本釣・鰹釣)に乗組員数と漁獲量とがえられる。これから一人あたり生産量の推移は算出できるが、厳密に言えば、操業時間・年間操業日数なども加味されなければならぬ。だが、これらは、「農林統計」からは知りえない。そこで、不完全なものではあるが、これを基にして、分析を進めよう。

ここでは、漁業種類別に検討するが、そのためには、その漁業種類によって漁獲される魚種が、できるだけ単一であるものが望ましい。その要求に応えるものは、旋網漁業におけるイワシと、鰹釣漁業におけるカツオ<sup>(2)</sup>である。

第8表―I、―IIは、イワシ・カツオそれぞれについて、旋網漁業・鰹釣漁業における漁獲量を、その漁業に従事した乗組員数で割って、一人当り生産量の推移をみたものである。これらの表によると、年によるフラクチュエーションはみられるが、大體一貫した生産力の発展をみる事ができる。

そこで、内地沖合遠洋漁業におけるイワシ・カツオの実際価格を第一章で行なったと同じ操作によって算出し、これと第8表でえた生産力との相関関係を見よう。ここでも図は省略するが、イワシ・カツオともに負の相関関係がはっきりと認められる。つまり、生産力の発展に照応し、価値が低下し、それに伴って、価格の低落が現象しているのである。この傾向は、イワシ・カツオともに同じように現われている。

なお、戦後については、近年漁業生産力を跡づける資料はあるが、ここで対象としている昭和二六年〜三三年については、二回にわたる漁業センサス（昭和二八年〜三年）しかない。しかし、戦前と戦後とは統計の方法が異質で、併列して比較できる性質のものではない。そのため、ここでは戦後の分析を行わず、別の機会に譲りたい。

注(1) 旋網漁業総漁獲量に占めるイワシ漁獲量は、対象期間を通じて、ほとんど八〇%以上である(例外、大正一三年)

第8表―I 生産力発展の推移 (イワシ)

年次	旋網漁業 乗組員数 (人)	旋網漁業 によるイワシ 生産量 (千貫)	乗組員1人当り イワシ生産量	
			実数 (貫)	指数
T 4	2,766	110	40	1
5	3,792	169	45	1
6	2,682	1,897	707	13
7	3,930	926	236	4
8	5,866	2,377	405	8
9	4,943	1,651	334	6
10	4,337	943	217	4
11	5,659	5,005	884	17
12	6,365	5,396	848	16
13	5,330	5,453	1,023	19
14	5,398	4,808	891	17
S 1	7,754	12,380	1,597	30
2	7,127	5,129	720	14
3	7,762	21,646	2,789	53
4	7,852	21,516	2,740	52
5	10,875	17,634	1,622	31
6	10,347	28,666	2,770	53
7	10,343	41,207	3,984	76
8	10,341	54,364	5,257	100
9	11,360	48,126	4,236	81
10	13,604	69,621	5,118	97
11	14,880	80,302	5,397	103
12	14,912	47,442	3,181	61
13	14,326	33,223	2,319	44
14	16,185	57,130	3,530	67
15	15,618	57,010	3,650	69

〔備考〕 各年次農林省および農商務省統計者より作成

第8表―II 生産力発展の推移 (カツオ)

年次	鰹釣漁機 乗組員数 (人)	鰹釣漁業 によるカツオ 生産量 (千貫)	乗組員1人当り カツオ生産量	
			実数 (貫)	指数
T 4	19,903	7,586	381	60
5	28,308	6,706	237	38
6	24,559	13,083	533	84
7	33,039	10,931	331	52
8	33,211	10,403	313	50
9	32,642	13,711	420	66
10	40,660	13,018	320	51
11	39,445	11,908	302	48
12	43,292	12,051	278	44
13	42,231	11,805	280	44
14	42,882	12,405	289	46
S 1	38,377	14,198	370	59
2	33,675	18,479	549	87
3	31,975	17,126	536	85
4	30,908	15,300	495	78
5	29,130	14,660	503	80
6	27,022	17,710	655	104
7	27,853	13,658	490	78
8	25,583	16,168	632	100
9	26,629	17,814	669	106
10	27,732	15,967	576	91
11	29,211	22,117	757	120
12	27,241	24,009	881	139
13	24,821	25,230	1,016	161
14	24,482	21,435	876	139
15	20,951	24,975	1,192	189

〔備考〕 各年次農林省および農商務省統計表より作成

七九%、同一四年七三%、昭和元年七九%、同二年五六%。また、内地沖合遠洋漁業で生産されるイワシ総漁獲量に占める旋網漁業によるイワシ漁獲量もほとんど八〇%以上である(例外、大正五年二八%、同一二年六五%、同一三年六六%、同一四年五七%)。

(2) 鰹釣漁業によって生産される総漁獲量の九〇%以上は、対象期間を通じて、つねにカツオによって占められている。また、内地沖合遠洋漁業によるカツオ総漁獲量に占める鰹釣漁業によるカツオ漁獲量もつねに九〇%以上である。